

こんにちは、
共生社会

ぐちゃぐちゃのゴチャゴチャ



2022年を振り返る

「こんにちは、共生社会(ぐちゃぐちゃのゴチャゴチャ)」は、障がいの有無、経済状況や家庭環境、国籍やルーツなど、一人一人の<差異>を優劣という物差しではなく独自性ととらえ、幾重にも循環していける関係性を生み出すこと、そして同時代性・芸術性の高い作品の創造と、それらを楽しむ・体験できる環境をつくり、関わる人すべてが新たな視点や価値観を見出すことにより豊かな社会が形成されることをめざし、2019年度にスタートしました。

昨年度より、障がいをもつ表現者にフォーカスしてきましたが、今年度ついにミックスエイブルのカンパニー「Mi-Mi-Bi(みみび)」が発足しました。障がい者対象ではない一般の演劇祭である豊岡演劇祭フリンジセレクションでの新作上演、そしてゲーテ・インスティテュート京都での『A GATHERING IN A BETTER WORLD』でのメンバー個々のディレクションなど、一つ一つが<可能性>を探る1年でした。カンパニーを立ち上げたからこそ、得ることのできた機会だったとも言えます。それぞれに異なる身体性や感覚、世界の捉え方をメンバー同士共有し、さらに観客と共有できる方法を模索し、作品創作するプロセスも、とてもクリエイティブな時間でした。やったことのないこと、見たことのないこと、知らないこと、をおもしろがってやってみること。Mi-Mi-Biの日々はたくましく、マイペースに邁進中です。

もう一つ、月1回開催している「やさしいコンテンポラリーダンスクラス」は、毎回新規参加者を迎えてつ、2020年より継続して実施しています。1歳から70代まで障がいをもつ青年も含め、老若男女が集い、それぞれが自分の時間としてダンスを楽しむ風景は、あるようであまり見ることの無い景色のように感じます。相互にリスペクトがあり、寛容で柔らかな時間。月1回の居場所に劇場になることは、劇場そのものが持つ包容力であり、可能性でもあると考えます。

神戸・新長田にあるダンスボックスの劇場<ArtTheater dB KOBE>と小さなロビーは、様々な障がいを持つ人やアーティストやスタッフ、地域の人が、日々対話し、稽古し、鑑賞し、作業し、くつろぎ、日常と非日常、社会と個人を往来しています。来年度は、この劇場とロビーの空間がまち中で展開できるとまた出会いも広がるなあと画策中。

この1年も多くの方の厚いご協力のもと、このプロジェクトを実施することができました。ここに御礼申し上げます。

「こんにちは、共生社会(ぐちゃぐちゃのゴチャゴチャ)」プロジェクト・チーフ あや 文

過去の報告書は
こちらから



CONTENTS

目次

ミックスエイブルダンスカンパニー Mi-Mi-Bi

- 03 未見美 ダンスワークショップ・フェスティバル【入門編】
- 04 豊岡演劇祭2022 フリンジセレクション作品
Mi-Mi-Bi from DANCE BOX
『未だ見たことのない美しさ～豊岡ver.～』
- 08 Mi-Mi-Biドキュメンタリー
『あたらしい言葉』上映会+アフタートーク
- 09 Mi-Mi-Biカンパニー
「DonDon Thanks Party!!2022」[オープン稽古]
- 10 ゲーテ・インスティトゥート大阪・京都 presents
KYOTO EXPERIMENT 2022 提携プログラム
『A GATHERING IN A BETTER WORLD』
- 11 Mi-Mi-Biプロジェクトメンバー

やさしいコンテンポラリーダンスクラス

- 12 やさしいコンテンポラリーダンスクラス
- 14 やさコン出張版「旅するクラス」
- 15 ちょっとスペシャルな1日
「やさコンクラス+プチ発表会」[ダンスパーティー]

手話講座

- 16 KAZUKI流 手話deトーク入門編

アウトリーチ

- 17 兵庫県立神戸聴覚特別支援学校
神戸市立青陽灘高等支援学校

情報保障

ウェブサイト・SNS開設

- 18 情報保障
ウェブサイト・SNS開設

ミックスエイブルダンスカンパニー Mi-Mi-Bi

未見美 ダンスワークショップ・フェスティバル【入門編】

それぞれの身体と感覚からダンスに出会う、
ひとりひとり異なる身体からダンスへのアプローチ。

身体に障がいのある人もない人も、見えない方も、聴こえない方も、踊ったことがない方も、それぞれのダンスや表現に出会い発見するワークショップを行いました。ここでのダンスに間違いや正解はありません。リズムに合わせて踊るダンス、ではない踊りもあります。まずは、ここに身体を運んでみる。その日がダンスへの第一歩。

ナビゲートは、Mi-Mi-Biメンバーが日替わりで担当しました。

ろう者でサインフォーマーとしても活動するKAZUKIと、踊る手話通訳士・三田宏美による「音のない表現を感性で磨こう」では、発話でも手話でもジェスチャーでもない方法で、言葉と向き合い連想されるイメージを身体で表現しました。視覚障がいをもつ武内美津子の「目を閉じて踊れば、見える感じるダンスの世界」では、目を瞑った状態で会場を歩き空間を把握していくことや、視覚情報に頼らずに複数人で踊ることなどを体験しました。義足のダンサー森田かずよの「その場にどう立つ、どう踊る？」では、ストレッチからはじまり、最後には〈歩く〉〈立つ〉〈座る〉などのシンプルな動きのみで即興ダンスを行いました。最終日には、車イスユーザーであり語り部・俳優としても活動する福角幸子「四肢と言葉の卍」と、同じく車イスユーザーの福角宣弘「身体であそぼう」を合同で開催し、参加者全員が車イスにのった状態での表現にチャレンジしました。

- 日程：①6月21日(火) 19:00-21:00 KAZUKI、三田宏美
②6月25日(土) 13:00-15:00 武内美津子、文
③6月26日(日) 13:00-15:00 KAZUKI、三田宏美
④6月28日(火) 19:00-21:00 森田かずよ、文
⑤7月2日(土) 13:00-15:00 森田かずよ、紅玉
⑥7月10日(日) 14:00-16:00 福角宣弘、福角幸子

会場：ArtTheater dB KOBE、ふたば学舎(7/10のみ)

料金：500円

対象：身体障がいのある人もない人も。※ダンス経験不問
ナビゲーター(日替わりで担当)：

紅玉、文、内田結花、KAZUKI、武内美津子、福角幸子、福角宣弘、
三田宏美、森田かずよ



豊岡演劇祭2022

フリンジセレクション参加作品

Mi-Mi-Bi from DANCE BOX

『未だ見たことのない美しさ～豊岡ver.～』

兵庫県豊岡市で開催された豊岡演劇祭2022フリンジセレクション作品として選出され、新作ダンス公演『未だ見たことのない美しさ～豊岡ver.～』を上演しました。

Mi-Mi-Biの旗揚げ公演でもあった今回。拠点の神戸・新長田から豊岡へ移動し、「旅」をテーマに展開しました。

演出は、義足のダンサー／俳優として国内外で活躍する森田かずよ。振付・出演には、「手の表現者」KAZUKI、視覚障がいをもつ武内美津子、車イスを身体の一部として駆使し表現と向き合う福角宣弘と福角幸子。そして、ダンサーの三田宏美と内田結花。

7名の異なる身体と音楽家・日野浩志郎による音、神戸のファッションブランド・bdeの衣裳とともに、未だ見たことのない旅へと誘いました。

日程：2022年9月22日(木)18:00

9月23日(金・祝)14:00

会場：豊岡市民プラザ

※9/22 出演者によるアフタートークあり(手話通訳付)
9/23 13:00～見えない人のための鑑賞ガイドあり

演出：森田かずよ / 演出補佐：内田結花 / 振付・出演：内田結花、KAZUKI、武内美津子、福角幸子、福角宣弘、三田宏美、森田かずよ / 音楽：日野浩志郎 / 舞台衣装：bde / 舞台監督：岩崎孔二 / 照明：三浦あさ子 / 音響：西川文章 / 字幕：橋本実弥 / 手話通訳：三田宏美、濱名孝枝 / フライヤーデザイン・写真：岩本順平 / 映像撮影：志子田勇(MOM & DAVID) / 制作：文、内田結花、橋本実弥 / エグゼクティブ・ディレクター：大谷煥 / 豊岡演劇祭2022 プロデューサー：松岡大貴、コーディネーター：中原信貴

掲載情報

-美術手帖web「まちづくりと連携した演劇祭。

「豊岡演劇祭2022」が3回目の開催へ」(2022.8.14掲載)

-神戸新聞「<豊岡演劇祭 2022後半の見どころ紹介>

20～25日公演以外にイベント、ナイトマーケットも」(2022.9.6掲載)

-神戸新聞「障害者らが現代舞踊 神戸拠点の団体、22、23日公演 豊岡演劇祭」
(2022.9.22掲載)

-NHK EテレハートネットTV「森田かずよ 世界に一つだけ、私の身体」
(2022.9.26放送)



後援：公益財団法人 兵庫県芸術文化協会
協力：NPO法人 プラッツ
撮影協力：医療法人社団 十善会 野瀬病院

🎤 公演を振り返って

障がいの有無を問わずダンスカンパニー「Mi-Mi-Bi」が生まれた。「未だ見たことのない美しさ」その頭文字を取ってMi-Mi-Bi(みみび)。Mi-Mi-Biには「障がい」という言葉を越えた様々な身体がある。感覚がある。性格がある。私を含め、そんな人たちと創作する日々は、単なる「他者を理解する」ではとどまらない時間である。私とあなたは何が違うのか。その差異を探っていく。その差異を、作品として昇華していく。

とても、大変である。しかし、身体に触れてみる。身体を預けてみる。人の息づかいを感じてみる。そこから始まるような気がしている。

そして、Mi-Mi-Biの言葉の通り、Bi〔美〕を問うていきたい。人は何を美しいと感じるのか。規範的な視点ではなく、少し規範を逸脱した私たちだからこそ、新たな「美しさ」を表現できるのではないかと夢見ている。

森田かずよ

本年度はMi-Mi-Biというカンパニーを立ち上げて1年を通して活動をし、ホームグラウンドのダンスボックスの劇場を飛び出して豊岡演劇祭やゲート・インスティテュート京都で活動し、大きな一歩踏み出したことが意義深いと思います。今後それを深めていけたらと願っています。

武内美津子

音のない世界で生きている私は、見るもの全て以外の表現も意識している。皆さんが感じている日常生活と私たちが感じている感覚とはかけ離れた知らない世界をそれぞれの「独自」な人たちが集結し、今までにない「Mi-Mi-Bi」を観ることになる。豊岡での公演では、息が止まるような世界観を魅せることができた。空間、呼吸、芸術、そして、それぞれの特性を活かしたパフォーマンス。今後の活動がどのように変化していくか楽しみである。

KAZUKI





抱心



スロープの傾斜がきつかった。きつかったけど、どうにかこうにか難関を乗り越えて、降りることができた。1回降りれたらこっちのもの。不思議な舞台上、出ハケの場所を覚えるのに時間がかかったが(まだまだけど)、全体としてはまとまりがついていたように思っている。一片をみることもできたけど、広く感じることもできた。

福角幸子

8月末会場下見でこの場所がどのように成るのかと思っていたが、会場に行くところなるかと。スタッフ、関係者の皆さんに感謝！自分にとって経験したことがない振付等があったりときつい時があった。稽古では無かった動きが出て楽しいものだったが体力等、身体作りをしなければいけないと感じた。

福角宣弘

観客の声

- 7人のバラバラな身体がぐちゃぐちゃに溶け合う。車椅子も白杖もぐちゃぐちゃに混ざりあっていく。どこまでが身体なのか、何が見えていて、何が聞こえるのか。
- 観れて良かった…！こちらの体が反応する、これから先を想像する、素晴らしいダンス公演でした。
- Mi-Mi-Bi「未だ見たことのない美しさ」すばらしかった！
- 凄かった！トークでダンスのきっかけはどうしているのか？との問いに「そこなんです！」と仰っていて、身体、動き、音、地形との関わり、ダンスをつくる為の対話それ自体のダンス性が浮き彫りにされ、自分の中の「観る」が変わった。
- びっくり。お腹の底から感動した。なにこれ、めっちゃカッコいいやん。

写真提供:豊岡演劇祭実行委員会
©igaki photo studio

Mi-Mi-Biとスロープのこと

これまで私の周りにはいわゆる障がい者と呼ばれる方はいなかった。いや、実際にはいたけれど特に意識することもなく生きてきた。

Mi-Mi-Biの記録映像を撮影することになった時に、高揚と緊張と共に不安がよぎった。自身の中に隠れた偏見や差別意識、悪意があるんじゃないか。カメラを向けた時に、自身とは異なった身体を好奇の眼差しで見ちゃうんじゃないか。カメラを向けるのは暴力そのもので、その事を自覚した上で被写体と対等な関係を築けるだろうか。

不安は一瞬で吹き飛んだ。

ミックスエイブルのダンスカンパニーMi-Mi-Biは「こんにちは共生社会(ぐちゃぐちゃのゴチャゴチャ)」のプロジェクトの一つ。ぐちゃぐちゃのゴチャゴチャとはよく言ったもので、不安を抱いていた私でさえもあれよあれよと取り込まれアメンバーになってしまった。そこには障がいのあるなしといった単純な線引きはなく、「私とあなたは違うよね」という至極当たり前の事実がそこにあった。「私とあなたは違うよね」の中では、障がい者も健常者も、日本人も外国籍もない。皆一様に「違う」のだ。だからこそ私たちは触れ合い、会話を交わし、他者を理解しようとする。社会に望むさまがMi-Mi-Biにはあった。

公演をした豊岡演劇祭の市民プラザの舞台にはスロープがあった。これは上段と下段を演者が自由に行き来し、広く動けるようにと設置したけれど、この一つの物体も、多様な身体を持つメンバーにとっては障壁であり、捉え方も違っていた。

森田さんや美津子さんにとっては崖や絶壁のような存在。スポーツマンの福ちゃんですえも易々とは登れない急勾配の坂。幸っちゃんにとっては落下したら大怪我をする細い平均台である。リハーサル時、スロープを降る練習をする幸っちゃんは「悔しい」と何度も試みていたが、私は正直『厳しいんじゃないか』とカメラを向けていた。しかし、四回目にして無事に降下してきた時、幸っちゃんは『いえ〜い!』とカメラにピースをして笑った。

障がいがあるから感動したわけじゃない。幸っちゃんの『いえ〜い!』には彼女の人間としての魅力が詰まっていて、これまで生きて得たタフさに感動したのだった。

後日、幸っちゃんに聞くと二回目にして出来ることは確信していたそうだが、周囲のヒヤヒヤとした反応が面白かったらしく三回目は芝居を打っていたらしい。

さすが幸っちゃん。演出家だなあと感心したのです。

そんな人としての魅力が詰まったMi-Mi-Biの活動を、これからも楽しみにしています。

映像撮影 志子田勇 (MAM&DAVID)

未だ見たことのない美しさ

市民プラザほっとステージの平土間がロールバックチェア対応のカーペットのため、毛並みが一方向で、車椅子にはとても不向きな床である。このため平土間部分に平台を敷き詰め、リノリウムを張り、リノ張りステージから平土間に車椅子で行き来が出来るようにスロープを設置しステージと平土間が一体となったアクティビングエリアを作った。

ど暗転で武内さんの白杖のコンコンという音から始まったパフォーマンスは、彼女がセンターに着くまでライトインしない。見えないがやや上手方向に進んでいると感じ、手探りでセンター方向へ誘導する。彼女にとっては日常のことなのだろうが、やはり見えないことは不安である。

その後の様々な障がいを持つダンサーによるパフォーマンスには圧倒された。それこそ「未だ見たことのない美しさ」という表現に納得した。

NPO法人プラッツ代表理事・舞台監督 岩崎孔二

写真:Mi-Mi-Biドキュメンタリー『あたらしい言葉』より



Mi-Mi-Biドキュメンタリー

『あたらしい言葉』

上映会+アフタートーク

2022年9月22日・23日に豊岡演劇祭2022にて上演した、Mi-Mi-Bi from DANCE BOX『未だ見たことのない美しさ~豊岡ver.~』の本編と、公演に向けたメイキングも合わせてドキュメンタリー映像作品にしました。この日は集まった方々と一緒に映像をみて、その後、映像監督の志子田監督と出演者によるアフタートークを行いました。

トーク登壇者:

志子田勇(監督・ディレクター)

内田結花、武内美津子、橋本実弥、福角幸子、福角宣弘、森田かずよ

日程:2023年3月19日(日)

会場:ArtTheater dB KOBE

料金:観覧無料

EPAD2022/文化庁 統括団体によるアートキャラバン事業

観客の声

監督の志子田勇さんと出演者、スタッフによるアフタートークと鑑賞者からの質疑応答も含めてとても有意義な時間だった。



2023年1月より無料配信中
<https://vimeo.com/826118749>

あなたと私が見えている世界は違う。
だからあなたのことを教えて。

一言に「障がい者」と言っても、障がいの数、人の数だけ異なる身体性や感覚がある。障がいのある人と無い人とで単純に分けられるようなものではない。初めてMi-Mi-Biの練習を見た時に、世間一般で伝えられるような「障がい者」のイメージはなく、内側から見たら単純明快に「私とあなたは違うよね」という至極当たり前なことの中に自分自身も放り込まれていた気がした。

「あなたと私は違う」の中では、障がい者も健常者も、日本人も外国籍もない。皆一緒に「違う」のだ。だからこそ私たちは触れ合い会話を交わし、他者を理解しようとする。そのコミュニケーションそのものがMi-Mi-Biの練習風景の中に当たり前のように貫かれていた。例えば、盲者である武内美津子さんの手を持ち誘導する内田結花さんの動きは、寄り添いを表現したコンテンポラリーダンスであるが、同時に舞台を成立させるための現実的な行為であり、社会生活における障がい者に対する補助行為でもある。これら二つの意味合いが舞台表現を通して同時に起こっている。そこが感動的なのだ。例えば、ろう者のKAZUKIさんに、流れている楽曲の印象や演出意図を、手話を用いて伝える三田宏美さんの動きは、コミュニケーションそのものの存在・身体として舞台上に立ち現れる。そのことに注視した時、私たち人間が、自身の身体や存在を通してすでに何かを伝えて表現しているのだと気づく。

「あなたと私が見えている世界は違う。だからあなたのことを教えて」これが本作品のテーマである。

志子田勇(監督・ディレクター)



ミックスエイブルダンスカンパニーMi-Mi-Bi

DonDon Thanks Party!! 2022

「序章、豊岡への旅支度」

年に一度開かれる、ダンスボックスの大感謝祭「DonDon Thanks Party!! 2022」に、Mi-Mi-Biカンパニーが出演。2022年9月に豊岡演劇祭にて上演する新作ダンス作品の序章として、プチパフォーマンスを行いました。

日程：2022年7月30日(土)

演出：福角宣弘、内田結花

出演：内田結花、武内美津子、福角宣弘、三田宏美

音楽：日野浩志郎

字幕：橋本実弥



Mi-Mi-Biカンパニー「オープン稽古」

月に一度、カンパニー稽古をオープンな状態で行いました。この稽古では、講師やナビゲーターなど、教える人はいません。それぞれに異なる身体性や感覚により自覚的になり、他者とのようにすれば自身の身体感覚を共有できるのか、その方法を探すために稽古していきました。なにをする？と手探りで話し合いながら始まり、参加者の新しい風が混ざり合いながら、自分のこととお互いのことを見つめ実践を積み重ねる時間となりました。

日程：2023年1月27日(金) モデレーター：内田結花

2月17日(金) モデレーター：KAZUKI

3月24日(金) モデレーター：武内美津子

時間：14:00~17:00

料金：無料

参加対象：障がいのある方もない方も。Mi-Mi-Biカンパニーの活動に興味があり、アーティストやパフォーマーを志すひとりとして共に稽古したいという方。
※単発での参加OK。手話通訳あり。



『A GATHERING IN A BETTER WORLD』

『A GATHERING IN A BETTER WORLD』は、障がいのあるアーティスト同士の出会いやネットワーキング、クリエイティブ空間の構築を目的として、ゲーテ・インスティトゥートとドイツの国際演劇フェスティバル、Festival Theaterformenが共同で立ち上げたプロジェクトです。今年7月のブラウンシュヴァイクを皮切りに、京都、モンテヴィデオ、ヨハネスブルク、上海で各都市それぞれのギャザリングを展開しました。

京都のギャザリングでは、Mi-Mi-Biがプログラムディレクターとして招聘され、KYOTO EXPERIMENT 2022の連携プログラムとして実施。Mi-Mi-Biとは何かをゆっくり紐解き、個々のメンバーの日常と表現の時間を行き来するエキシビジョンを行いました。それぞれの異なるからだ感覚。「何故踊るの?」「見えない先に何が見えているの?」など、メンバーそれぞれをもう少し深く見つめ、感覚とビジョンを共有し、やわらかな対話の時間をつくる4日間。ディスカッション、ワークショップ、オープンスタジオ、インスタレーションなどすべての企画とその空間、時間、ゲスト、交流の形をアーティスト自らが決定し実行し、期間中には非公開のプログラムとして、障がいのあるアーティスト同士の交換・交流の場（ギャザリング）も設けて、みんなにとってより良い社会について考える対話がうまれました。

Mi-Mi-Bi 『feel & LIFE & …』

森田かずよ企画「トークセッション 国内ゲスト版/海外ゲスト版」

国内ゲスト：大橋弘枝（俳優、演出家、プロデューサー）

石田智哉（映画監督、現代心理学研究科映像身体学専攻修士課程卒）

海外ゲスト：ヘンドリック・クヴァスト（パフォーマンスアーティスト、ヴィラ鴨川滞在アーティスト）

アナ・ミュルター（フェスティバル・シアターフォーメン芸術監督）

パトリツィア・クバネク（パフォーマンスアーティスト、セクシュアルカウンセラー）

KAZUKI企画「KAZUKIナイト&サイレントバー/サイレントディスコ」

ゲストDJ：雨宮優（Silent it）

武内美津子企画「美津子の部屋へようこそ」

福角幸子企画「私の語りの世界」

ろう通訳：KAZUKI、フィーダー：三田宏美

Mi-Mi-Bi企画「Mi-Mi-Biワークショップ&パフォーマンス」

日程：2022年10月13日（木）～10月16日（日）

会場：ゲーテ・インスティトゥート ヴィラ鴨川

参加費：無料

対象：障がいのある人もない人も。 ※ダンス経験不問

手話通訳：三田宏美、久保沢香奈、青山好一

主催：ゲーテ・インスティトゥート大阪・京都

共催：NPO法人DANCE BOX

手話通訳：三田宏美、久保沢香奈、青山好一

関連プログラム：こんにちは、共生社会（ゴチャゴチャのぐちゃぐちゃ）

「こんにちは、共生社会」プロジェクト協働メンバー：文、内田結花、橋本実弥

写真提供：©Goethe-Institut Osaka Kyoto/Toshihiro Shimizu



Mi-Mi-Biプロジェクトメンバー

内田結花

2022年2月に上演された、トライアル・ダンス公演『未だ見たことのない美しさ』に協働メンバーとして参加し、今年度はMi-Mi-Biカンパニーの立ち上げから制作スタッフとして関わりました。豊岡公演では演出補佐、出演者としての役割も担い、観客にみえる時間もみえない時間も共に走りました。

この一年ともに活動する中で、既存の考え、例えば、ダンスとはこういうものだ、ダンサーとはこう振る舞うものだ、プロのパフォーマーはこうでなきゃだめなんだというものを振り払いながらも、ミックスエイブルダンスカンパニーとして、Mi-Mi-Biとして、捨てられないものは何かを探す年だったようにも思います。

23年1月からはじめたカンパニー稽古では、一緒に活動していく上で全員で共通して持っておきたい記憶・感覚・知識etc…を蓄えはじめました。この稽古をはじめてから、カンパニーとしてもようやくスタートできたような気がしています。今後のMi-Mi-Biの展開に私も胸が高鳴ります。

三田宏美

身体も感覚も異なりの振り幅が大きなメンバーが集まったクリエイションの日々は、「カオス」とか「破壊と創造」とかの言葉が何度も脳裏に浮かぶ日々でもありました。

例えばひとつのきっかけをつくるにしても、音だけでは伝わらない、動きだけでも見えない。それぞれが自分のこれまでの常識を一旦脇に置いて、自分や相手の身体や感覚を見つめ直し真正面から向き合わざるをえない。さらにそこが障害種による特性だけではない立体的な個々のその人自身に向かい合う創造の場であることが担保されていたことが、たぶんMi-Mi-Biの特徴で、その切実さや信頼から立ち現れる強さがあったのだと思います。

豊岡公演に向けて作品をつくるこの過程の諸々が、ゲーテ・インスティトゥート・ヴィラ鴨川で開催の『A GATHERING IN A BETTER WORLD』での個々のメンバーによる多彩なエキシビジョンや、dBロビーでのサイレントな(声を使わない)手話講座といった取組みの濃さ豊かさにも繋がったのだろうし、これからの共生と創造の未来への可能性なのだと感じています。

橋本実弥

私が初めて「こんにちは、共生社会」に関わったのは、2022年6月豊岡演劇祭の作品づくりにむけたMi-Mi-Biのミーティングの場だった。話し合いの声はアプリでテキスト化されてプロジェクターに投影されていく。テキストと三田さんの手話が見やすい対面した位置にKAZUKIさんが居る。アプリの誤変換で場に笑いが起きたりすると「こんなことになっているよ」と、視覚情報を言葉にして美津子さんに伝える。「情報保障」と記すとかたそうだが、それまでに創作を共にしてきた時間、工夫、知見の積み重ねで、でこぼこのお互いが同じ目線で意見を交わすためのふかふかの土台がそこにあるように感じた。

その後スタッフとして公演やWS等に携わるなかで、一見すると既にそこに確固としてあるように感じていたふかふかの土台は、ずっとそこにあるような代物ではなく、関わり合う人たちがその場に心に向けているからこそ、生み出されているのだと実感した。自分もその一部を担えたらと取り組み、振り返ってみるとむしろ自分がふかふかの恩恵を受けていたように思う。

写真提供: ©Goethe-Institut Osaka Kyoto/Toshihiro Shimizu



やさしい コンテンポラリー ダンスクラス

クラスは月に1回。「クラス」と名前がついていますが、ダンス教室のように先生がいるわけではありません。何かを教える先生がいない代わりにナビゲーターと呼ばれるダンサーがその場の体験をナビゲートしていきます。シンプルなルールをつかって、ひとりひとりが自分のからだ向き合いながら踊り方を探していきます。そうして周囲の雰囲気もゆるやかに感じながら過ごすダンスクラスです。

日程：2022年4月24日(日)、5月15日(日)、6月19日(日)、7月24日(日)、
8月28日(日)、9月11日(日)、10月9日(日)、11月20日(日)、
12月11日(日)、2023年1月22日(日)、2月12日(日)

時間：10:30-12:00

会場：ArtTheater dB KOBE

対象：踊ってみたい方はどなたでも。踊ったことのない方も大歓迎。

障がいのある方も大歓迎。ベビーカーなどのお子さんづれもぜひ。

参加費：無料(カンパ制)

ナビゲーター：西岡樹里

掲載情報：日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS TODAY コラム
"しょうがい"とアートをつなげる法律って何？その3
<https://www.diversity-in-the-arts.jp/stories/36653>



やさしいコンテンポラリーダンスクラスInstagram
@yasacon_dance



やさしいコンテンポラリーダンスクラス ウェブサイト
<https://yasacon.wixsite.com/dbkyosei>





COMMENT

「おはようございます」と参加者のみなさんと挨拶すると、見慣れたお顔も増えてきて、誰かがいてくれることでいつもの場所と思える、そんな雰囲気も少しずつできてきたように思います。新しい参加者さんも毎月交えながら、月に1度の「やさコン」をみなさんと過ごしています。2023年3月でやさコンをスタートしてから約2年半が過ぎました。ここで踊りながら、ひとつひとつの“からだ”からこぼれる工夫やアイデアに、ひとりひとりが驚かされ合いながら過ごしてきました。私も、ホカホカとした気持ちにさせられたり、圧倒されたり…

「やさコン」にはペアになって2人で動くダンスもあります。これはルールをゆるやかに越えることができるダンスです。この2人ならどんなダンスになるのかを楽しむのですが、動かなくなったりいいし、途中で3人になることだってありました。その中で相手に動く速さを合わせてみたら、知らなかったリズムに出会ったり。パッとその場を離れて駆け出していく相手を思わず追いかけると、予想より体が軽やかに動いたり。そうやって誰かと踊ってみよう工夫していると、自ずと動きが創造されることがあります。そこには、教える・教えられるような一方の関係ではなく、お互いが驚かされ合う関係の中で発見していくような体験がありました。

その人の癖や好み、その日の気分、無意識の様々も含んだ豊かで不思議な“からだ”からこぼれる、誰かが決めたダンスらしさだけにとどまらない、とても幅広い工夫があちこちで輝いていた1年でした。

西岡樹里

参加者の声

- あってほしい世界のあらわれの1つである時間。
- とても気持ちにのこる時間。
- ぼくは、ダンスおどるのはたのしいです。やさしいコンテンポラリーダンスのみんなダンスおどる時間ありがとう。ダンスの先生ぼくはダンスは好きです。
- 神戸で暮らしはじめてからの貴重な居場所です。
- 自分のままでいれる場所。
- からだとこころがほぐれる。
- やさコンはとてもあったかくてやさしい時間です。やさコンは易コンじゃなくて、優コンですね。
- 親子で自由に過ごせる時間。

やさしいコンテンポラリーダンスクラス

出張版「旅するクラス」

全国（地域施設、福祉施設、劇場、スタジオ、WS、アトリエ、など）どこへでも、踊ってみたい方がいらっしゃる場所にナビゲーターが出張して、ダンス体験をお届けしました。

ナビゲーター：西岡樹里

『からだであそぼう!』

ダンスになる前の『からだあそび』を体験。ひとりひとりが感じていることを大切に、この瞬間だから生まれる新鮮なからだの表現も楽しんでみました。

日程：2022年8月22日（月）、11月5日（土）

時間：10:00～11:00

会場：芦屋市立あしや市民活動センター リードあしや

主催：Sun=Arte Approach

『いろんな表現の世界をのぞいてみよう』

地域の子どもたちに、色んな表現を紹介したいという思いで活動をされている演劇団体・和の木主催の出張クラス。毎月、ラップや手話、演劇、ミュージカルなど様々なWSを開催されていて、2月はやさコンを行いました。

日々生活をしていて、リアルに体が経験することの中には、不思議に感じたり、緊張したり、勉強みたいに答えがなくて驚いたり、でも面白いなって感じたり、色んな理由で体がふるえるものがたくさん。日々と地続きのダンスもその1つです。自身の体や心がふるえるからこそ、自分ごととして、感じるし、考えられる事もあると思ったりします。

継続して色んな表現に触れている皆さんは、この日も「何これ!」「なんかいいな」「私はこうしたい」を見つけてくれていて、体験の中で「面白いかも!」を発見した時のキラリと変わる目と集中力、素敵な笑い声が印象的でした。

日程：2023年2月25日（土）

時間：13:15～14:45

会場：ランチ神戸学園都市 コミュニティルーム

主催：和の木



やさしいコンテンポラリーダンスクラス

ちょっとスペシャルな1日

「やさコンクラス+プチ発表会」

「ダンスパーティー」

朝はやさしいコンテンポラリーダンスクラスと即席発表会。お昼からはごちゃまぜのダンスパーティータイムへ！DJにかけたい曲をリクエストしたり、マイクで自己紹介する人、持参した楽器で演奏する人も。プチパフォーマンスの時間もあり、それぞれの体からそれぞれの踊りがあふれる楽しい時間になりました。

日程：2023年3月19日(日)

時間：10:00～12:00「やさコンクラス+プチ発表会」

13:15～14:15「ダンスパーティー」

料金：無料(カンパ制)

会場：ArtTheater dB KOBE

ナビゲーター：西岡樹里

DJ：海空



手話講座

KAZUKI流 手話deトーク入門編

～全10回の連続講座～

俳優、モデル、そしてサインパフォーマーとして活躍する「手の表現者」KAZUKIによる、全10回の手話講座を開催しました。ダンサーや劇場スタッフも参加し、公演本番の受付の対応や舞台裏でのコミュニケーションなど、舞台にまつわる手話を用いたコミュニケーションも多くとりいれました。講座は全てサイレントな（発話しない）状態で行い、質問などは手話か筆記で。音はないけれど、始終賑やかな手話講座となりました。

日程：2022年7月14日(木)、7月28日(木)、8月4日(木)、8月11日(木)、
10月13日(木)、10月21日(金)、11月10日(木)、11月17日(木)、
12月8日(木)、12月15日(木)

時間：18:30～20:00

会場：ArtTheater dB KOBE ロビー

料金：500円/回(介助者無料)

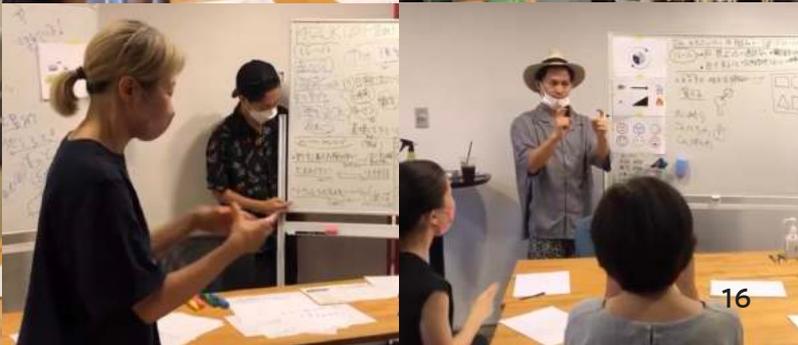
対象：どなたでも。障がいのある人もない人も。

講師：KAZUKI

アシスタント：三田宏美

参加者の声

- 手話はずっとやりたかったのですが、“勉強”と思うと難しく感じてなかなか行動できなかったのが、今日来て言葉やコミュニケーションをとるものなんだなあ実感できてよかったです。
- イメージがつかみやすく、ひとつひとつ分かりやすいレクチャーでした。



アウトリーチ

兵庫県立神戸聴覚特別支援学校

ワークショップのテーマは、「考える力を育む／それぞれに違っていい時間／体でコミュニケーションする」。単語を身体で表現してみることに挑戦。正解も間違いもないダンスの時間を通して、それぞれの感覚や考えなど、誰かと違っていてもいい時間をつくりました。

日程：2023年2月16日（木）
対象：小学部1～6年生 合計18名
ナビゲーター：文、内田結花、KAZUKI、三田宏美

神戸市立青陽灘高等支援学校

『コンテンポラリーダンス体験』～個々の表現を楽しもう、味わおう～「体をつかって何ができるかな？」をコンセプトに、“ダンス”としてのふれあいを通して、ひとりひとりの踊りや、既存の“踊り”のイメージにとどまらないその人の体の表現を探していきました。事前の先生方へのワークショップや、スティックやリボンを使って身体が自然に動く工夫など念入りに準備も進めました。

日程：2023年3月16日（木）
対象：1～2年生 合計80名
ナビゲーター：西岡樹里
アシスタント：文、内田結花、高野裕子、田中幸恵、中元俊介、吉川史浩



情報保障

視覚障がい者のための鑑賞ガイド

実施公演：国内ダンス留学@神戸8期 Newcomer/Showcase#3 森下真樹振付『ベートーヴェン交響曲第9番を踊る』、国内ダンス留学@神戸8期成果上演『Escapist』、他。開演1時間前に劇場に入り、当日配布されるパンフレットの情報を音読、劇場の形状やステージの広さを誘導者とともに歩く、ダンサーの身体や衣装に触れたり、声を聞くなど、公演を作り出す要素や公演の構成をできるかぎり伝えました。座席は空気感の伝わりやすい最前列中央部に着席。上演中はご自身で鑑賞していただき、上演後に複数人から、どのような公演だったかを伝える方法を試みました。

字幕

実施公演：DonDon Thanks Party!! 2022 Mi-Mi-Bi「序章、豊岡への旅支度」、豊岡演劇祭2022 Mi-Mi-Bi from DANCE BOX『未だ見たことのない美しさ～豊岡ver.～』、他。公演の一部、音声に言葉が入る部分のみ字幕を投影。作品制作の段階で、文字のサイズ、投影する位置などを演出の一部として考え制作しました。上演時は字幕を担当するスタッフが付き、できるかぎり正確に言葉を伝えられるよう工夫しました。その他、ダンスワークショップ時やオンライントークなどでは、音声認識アプリを使用し開催しました。

手話通訳

多数のプログラムに手話通訳を導入しました。

ウェブサイト・SNS開設

ウェブサイト

今年度新たに、2つのウェブサイト（「こんにちは、共生社会」プロジェクトウェブサイト、「やさしいコンテンポラリーダンスクラス」ウェブサイト）を公開しました。障がいをもつ方自身がウェブサイトを見たときに情報が伝わりやすいよう工夫を重ねながら運営しています。文字サイズや色の変更、日本語の他に4つの言語に自動翻訳に対応しています。



こんにちは、共生社会 ウェブサイト
<https://diversity.db-dancebox.org/>



やさしいコンテンポラリーダンスクラス ウェブサイト
<https://yasacon.wixsite.com/dbkyosei>

Instagram / Twitter

公演やイベントの情報の他、日々のようすなどを配信しています。



こんにちは、共生社会Twitter
[@kyosei_db](https://twitter.com/kyosei_db)



こんにちは、共生社会 Instagram
[@npodancebox_gg](https://www.instagram.com/npodancebox_gg)



やさしいコンテンポラリーダンスInstagram
[@yasacon_dance](https://www.instagram.com/yasacon_dance)



ぐちゃぐちゃのゴチャゴチャ

こんにちは、共生社会



主催：文化庁、NPO法人DANCE BOX
企画制作：NPO法人DANCE BOX

